

今回の調査で得られたこと

(1) 森本・富樫断層帯とその周辺「鶴来」

森本・富樫断層帯とその周辺の図には、富樫断層 8 km、その他の推定活断層を表示しています。

(注:断層の長さは本図に表示されている範囲です)

表示した活断層は、以下のとおりとなります。

富樫断層は、金沢市四十万町から白山市鶴来今町までほぼ南北方向に延びる、西側下がりの縦ずれ^{*}を主体とする断層です。また、白山市坂尻町付近から日御子町にかけて、西側下がりの縦ずれ断層が分岐しています。(資料2-A)

(2) 綾瀬川断層とその周辺「鴻巣」

綾瀬川断層とその周辺の図には、綾瀬川断層 15.5 km、その他の推定活断層を表示しています。

(注:断層の長さは本図に表示されている範囲です)

表示した活断層は、以下のとおりとなります。

綾瀬川断層は、鴻巣市神明付近から伊奈町細田山付近まで西北西-東南東方向に延びる断層で、北本市深井付近で分岐が見られます。鴻巣市神明付近から北本市深井を経て北本市中丸に延びる断層は、活撓曲^{*}変位を伴っています。北本市深井から伊奈町細田山に延びる断層は、一部活撓曲を伴うとともに、桶川市向から上尾市須ヶ谷にかけて、断層線に並行して段丘面の一部に活褶曲^{*}が見られます。(資料3-A)

(3) 那岐山断層帯(山崎断層帯)とその周辺「津山東部」

那岐山断層帯は数本の活断層からなり、那岐山断層帯(山崎断層帯)とその周辺には、声ヶ岬断層 10 km、那岐山断層 6 km、那岐池断層 9 km、その他の推定活断層を表示しています。

(注:断層の長さは本図に表示されている範囲です)

表示した活断層は、以下のとおりとなります。

- ① 声ヶ岬断層は、津山市奥津川から奈義町関本までほぼ東西方向に延びる断層で大きく2つに分けられます。今回の調査によって新たに活断層として認められました。(資料4-A)
 - 1) 津山市奥津川から大吉付近までの西側部分は、北側山地の南麓に傾斜変換線を伴った鞍部が直線状に配列し、南下がりを示します。2、3の河谷の屈曲が認められ、左横ずれが伴われた断層と考えられます。
 - 2) 津山市大吉付近から奈義町関本までの東側部分は、一部で伏在部を含む南側下がりの縦ずれを主体とする断層です。また、奈義町宮内付近から上高円付近までは、主断層に沿って複数の短い断層が認められます。
- ② 那岐山断層は、津山市下分から大吉付近まで延びる、南側下がりの縦ずれを主体とする断層で、系統的な河谷の屈曲が認められるので、右横ずれ成分も含まれています。(資料4-B)

- ③ 那岐池断層は、津山市下分から奈義町広栄付近まで延びる断層で、南側下がりの縦ずれ断層を主体としています。また、津山市新野山形付近では、主断層の南側に並行して南側下がりの短い縦ずれ断層が認められます。(資料4-C)

(4) 菊川断層帯とその周辺「下関北部」「宇部」

菊川断層帯とその周辺の図には、菊川断層 40 km、奎路子断層 4.5 km、その他の活断層・推定活断層を表示しています。(注:断層の長さは本図に表示されている範囲です)

表示した活断層は、以下のとおりとなります。

- ① 菊川断層は、「下関北部」図幅から「宇部」図幅にかけて、下関市本郷から山陽小野田市松浜まで延びる北西-南東方向の左横ずれを主体とする断層です。断層は「下関北部」図幅の下関市下組で分岐して「宇部」図幅の山陽小野田市梶下まで続き、ここから周防灘の海底に延び、山陽小野田市刈屋で再び陸上に現れ松浜に至っています。「下関北部」図幅では、下関市奥畑付近から大藤付近まで、主断層の西側に並行して左横ずれ断層が認められます。また、下関市下組で分岐した断層は、「宇部」図幅内で北西-南東方向の複数の断層線が分岐や雁行を伴いながら連なっています。いずれも系統的な河谷の左屈曲が認められます。(資料5-1-A、資料5-2-A、資料5-3-A)
- ② 「下関北部」図幅の奎路子断層は、下関市明見^{あから}付近から奥野付近まで延びる並行した北東-南西方向の右横ずれを主体とする断層で、系統的な河谷の屈曲が認められます。今回の調査によって新たに活断層として認められました。(資料5-1-B、資料5-2-B)
- ③ 「宇部」図幅の山陽小野田市松ヶ瀬から鴨庄にかけて、北北東-南南西方向に並行する小規模な活断層(3km)が見られます。西側の断層は中央部が西側下がりの縦ずれで、一部で系統的な河谷の右屈曲が認められます。また、東側の断層は東側下がりの縦ずれ断層となっています。今回の調査によって新たに活断層として認められました。(資料5-1-C、資料5-3-C)
- ④ 「宇部」図幅の宇部市持世寺から文京台にかけて延びる活断層(6km)は、北北東-南南西方向の右横ずれを主体とする断層で、系統的な河谷の屈曲が認められます。今回の調査によって新たに活断層として認められました。(資料5-1-D、資料5-3-D)

(「*」は、参考資料2の「8. 用語の説明」を参照)